

「セ・ロム」はゲーテの人柄をナポレオンにして「セ・ロム」(これぞ、人間だ!)と言わしめた伝説の言葉。  
「エッセイの森」は面白く、有意義な読み物(木々)がたくさん集まり、森の如く知の緑を成す(SDGs)ことを意味する。

## ジョークサロン会員/リレーエッセイ④

### 駄洒落だよ 人生は

筆者は『言葉の研究』と『ものは付けの選者』の二つを担当している。

担当内容の紹介の前に、自己紹介に代え、「柴本」との遭遇を紹介する。

#### 《朝ドラでの柴本との遭遇》

二月末の『ブギウギ』の放送の冒頭に三浦カズの長男が演じる「柴本」がサブライズ登場。連呼される自分の名前を聞くことは捨てたものでなかった。

しかしである。同日の午後、大谷の結婚報道があつて、朝の感動は完全に吹き飛んでしまった。

#### 《大河ドラマでの柴本との遭遇》

大河ドラマの『大石内蔵助』に9歳だった息子が、平幹二郎と大原麗子の次男役で出演。顔合わせ会のこと。

ひとりの俳優がニコニコ顔で、「ボクボクおじさんも柴本だよ。親戚かも知れないねその俳優の名は「柴俊夫」。

数十年後の息子の結婚式では、「義理の親戚」の立場で、主賓のスピーチをお願いした。遭遇と奇縁の織りなす出来事だった。

#### 《紹介①言葉の研究》

筆者の担当する「言葉の研究」とは名前こそ、格調が高そうに聞こえるが実態は、ズバリ駄洒落である。されど駄洒落は韻を大切にすると高貴な伝統的文化だと考える。

筆者の毎月の駄洒落発表には①閃き

#### ②言葉化③発表の3つある。

・閃きとは、突然の「思いつき」である。それは瞬間に消えてしまうものであり、もったいないし、思いついた自分の脳にも失礼な話である。文明の利器のスマホを活用してメモしている。

・言葉化とは脳内の「閃き」を目に見える文字とすること。文字化が完了した時の「達成感」や「張り合い」は脳にとっては喜びと感ずる。

・発表とは、作品を披露することである。脳科学者は、閃きを、言葉化し最終的にアウトプットする習慣は「ハツラツ脳」形成に有益であるとしている。「駄洒落は脳を救う」との学説である。

駄洒落ネタに関しては、「渡る世間はネタばかり」であり、そのネタに気づくかどうか勝負。高感度のアンテナを高くした日常生活を送ることに心がけている。

では筆者の作品をいくつか紹介する。

- 旅行先でのネタの発見
- 流水に閉じ込められたシャチ
- 救助を求めて「ここにシャチあり」
- キムとボクばかりの韓国では
- 運転手は、キムだ。車掌はボクだ
- 西郷隆盛の食事の締めはうどん
- さいごうどん(さいごう・どん)
- フオーが珍味なベトナムの都市
- ホーチミン(フオー・珍味)

・日系パートのあるトルコの都市  
イスタンブール(伊勢丹・プール)

●おじいちゃんに不適切なひと言  
せがむ孫くたかいたか(世界?)  
老妻く先に寝る。安らかにお休みなを

●飲み会参加者は、全員集合(酒豪)  
酒量が凄人く狩猟(酒量)民族  
濃い酒が好みく農耕(濃厚)民族

●昔は〇〇、今は〇〇  
昔はハツラツと「ちい」散歩  
今はヨボヨボと「じい」散歩

●健康のため、お酒は《セツシュ》  
普通の人く健康のためだ《節酒》

●飲んべえく健康のためだ《接酒》  
●世相

●阪神が優勝を逃したくアレアレ詐欺  
●断捨離とはく断じて捨てず離れず  
●自民党の花見の宴く花より談合  
●ちよい悪オヤジ。今はちよい漏れ

#### 《紹介②ものは付け》

ものは付けとは、言葉遊びのひとつである。筆者の「:」なものは」という出題に対し、会員が回答を応募する。

その中から筆者が「面白い」と思うものを独断と偏見で入選とする。入選のポイントになるほどと思わせる面白さ。意外性とユーモアがポイントで、それが命である。そして入選作に筆者が好き勝手な「評」をつける。この評を考えることが、筆者にとっては、脳の活性化に役立つ楽しみである。

「ものは付け」を三行で紹介する。

筆者お題く会員回答く筆者の評の順

●(出題)まさかと思うものは  
自動車の自動運転で飲酒運転が可能

く睡眠運転も解禁される未来が来る

●(出題)思わず巨匠と言いたいのものは  
夫の隠し事を悉く暴く女房の第六感  
く特殊能力に、無駄な抵抗なり

●(出題)どうにも止まらないものは  
増える皺と物忘れ。減る毛髪と預金  
く増えるものと減るもの。悩み多き年

●(出題)とても我慢ができないものは  
江戸っ子オヤジの熱湯風呂  
く銭湯に生息する、やせ我慢の極み

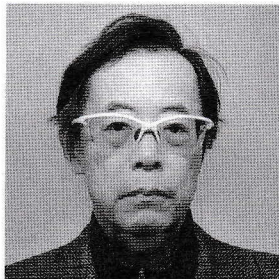
●(出題)それ頂戴と思うものは  
フサフサした髪の毛と笑いのセンス  
く新格言:笑う頭に髪が来る

●(出題)ポーっと思っていると  
ついアクセルとブレーキを間違う人  
く二つの位置を逆にした車が人気上昇

以上筆者の担当内容を紹介した。今後も「駄洒落だよ 人生は」を心に駄洒落で、「ハツラツ脳」を維持していきたいと考えている。

#### 著者プロフィール

しばもと かず お  
**柴本 和夫**



ジョークサロン会員  
金鳥という名の会計を担当  
昭和27年長野県生まれ  
1975年 一橋大学商学部卒  
都市銀行勤務で大半を本都部の経理部門を担当。駄洒落好きでお堅い銀行マンとの二刀流。  
返還直前の香港に5年の勤務を経験。会社退職後の趣味は旅行と歴史。現在は戦国時代の城巡りが生きがい。